

西神門 初優勝

紙相撲新聞

第160回本場所
十日目～千秋楽号

編集・発行
日本紙相撲協会

英筏 (145回) 以来の平幕優勝

前頭筆頭での優勝は紙相撲史上初

【第百六十回本場所十日目千秋楽】

師走に入り、今年も残すところ3週間あまりとなった12月9日に十日目と千秋楽が開催された。

混戦となった今場所だが、最後に賜杯を手にしたのは前頭筆頭の西神門。初優勝を10勝1敗で飾るとともに、敢闘賞(3回目)と技能賞(初)を併せて受賞した。

このほか、三賞は殊勲賞に八日目に横綱千代鈴を破った関脇四季嶋が2回目の受賞、敢闘賞は千秋楽まで優勝争

いを演じた剛勇山が初受賞、技能賞は初日から7連勝し、技能を發揮した夢ノ花が初受賞となった。



↑初賜杯を朝日松理事長から受ける西神門。兄弟子の横綱千代鈴とともに春日根黄金時代の立役者だ。

↓千秋楽、1敗の西神門は2敗の剛勇山と対戦。左差しから一気の寄りで完勝。結びの一番で大神楽が敗れて優勝が決まった。



モニターで観戦。1敗を守った西神門は控え室に戻り、決定戦を想定して結びの一番を

人のと西大1が夢宇
山の剛2神敗ノ治家
にの剛2神敗ノ花



大神楽○(寄り切り) ●剛勇山 西神門○(寄り切り) ●宇治家

優勝	殊勲賞	敢闘賞	技能賞	十幕	三段目	序口	場所
西神門	四季嶋	西神門	剛勇山	西ノ花	椿富士	伊勢里	
十勝一敗	八勝三敗	八勝三敗	八勝三敗	十勝一敗	五勝	五勝	五勝
(初)	(2)	(3)	(初)	(初)	(初)	(初)	(初)

千秋楽は西神門と剛勇山とが直接対決。大神楽は横綱千代鈴と結びで対戦となった。大神楽か西神門がともに勝てば1敗での優勝決定戦となるが、ともに敗れるようなことがあると剛勇山を含めた3人による優勝決定戦の可能性もある。

優勝にかかわる一番で、まずは西神門と剛勇山が土俵に上がる。

西神門は先場所9勝2敗で優勝した千代鈴に次ぐ準優勝の成績を上げ、今場所は初日に大神楽に敗れたものの2日目から9連勝。三日目には横綱若ノ嶋を破るなど、さらに強さが増した急成長の相撲を見せている。

一方の剛勇山は幕尻まで残り2枚と今場所の成績次第では十両陥落も覚悟しなくてはならない番付まで落ちていたが、奮起した今場所は初日から6連勝として千秋楽まで優勝を演じている。

「この一番にて千秋楽にごさいます」との木村章之助の触れ。今年最後の取組、千代鈴と大神楽が対する。

優勝候補の本命と言われていた千代鈴だったが、相撲の歯車が噛み合わないような相撲が散見され、連敗もあって優勝争いから脱落の援護射撃となるため自ずと気合が入る。

一方の大神楽は今場所は体重が増えたことあって、早い相撲で勝負をつけるようになっても安定感が増した。今場所こそは何として優勝して悲願の横綱昇進への足がかりとしたいところ。

先ずはこの一番に勝って、西神門との優勝決定戦に持ち込まなくてはならない。



千代鈴○(引き落とし) ●大神楽

勝負は立合いの踏み込みよく大神楽が左を差す体勢に。しかし、前のめりになりすぎて足が切りにくい千代鈴を寄り切る前に土俵を這った。「あゝ！」と悲鳴にも近い声をあげる磯ノ海親方。「せっかく左を差したのになあ！」と錦風親方。これにより、決定戦にもつれ込むことなく、西神門の初優勝が決まった。

今場所は2人のベテラン横綱が休場し、来場所も休場して次の場所に進退を賭けて出場する模様。今場所9勝2敗で惜しくも優勝はならなかった大神楽は優勝が大前提だが、その内容次第では横綱昇進の話に及ぶ可能性もある。

また、来場所は勝ち越した鉄甲、綱乃花、四季嶋の3関脇に優勝の西神門を加えた4関脇の番付になりそうで、4人による大関昇進争いに注目が集まりそうだ。

来年は新旧交代の年となるのか、それとも若ノ嶋、春ノ翔がそれに立ちはだかるのか、来年の本場所が楽しみだ。(錦風)